議題　作業部会報告の取り組み状況について

１　事業所部会

⑴ 平成２７年度検討事項

ア　課題

障害分野ごとの課題を解決する体制が未整備

イ　今年度の取組内容、目標

代表者会議にて意見交換を行い、今年度の方向性を検討。課題別（移動支援、日中一時支援、行動援護、強度行動障害、グループホーム等）のワーキンググループを設置

ウ　今年度のこれまでの取組内容

(ｱ) ４月２３日（木）事業所部会代表者会議開催。平成２７年度の方向性を確認

(ｲ) ５月２６日（火）事業所部会開催。平成２６年度の取組みの振返り、へきなん障害者ハーモニープラン（第４期障害福祉計画）も含め、碧南市における課題確認。平成２７年度は、移動支援におけるグループ支援について重点的に検討。また、移動支援と併せて、課題となっている土日の日中活動サービスについても検討していく方向性を確認。

(ｳ) 事業所部会の部会長を碧南ふれあい作業所の竹内氏に決定

(ｴ) ７月８日（水）第１回移動支援ワーキンググループを開催。グループ支援に対する疑問、移動支援に全般に対する疑問について意見交換

①グループ支援をどのような目的で利用するのか。また、どのように対象者を募るのか。

②移動支援での外出の範囲や交通手段など、どのように考えていくべきか。

③休日等に他のサービスがなく、移動支援で対応している現状。

④インフォーマルサービスでの対応も必要。

(ｵ) ９月 16 日（水）第２回移動支援ワーキンググループ開催。第１回での疑問等に関する課題整理

①移動支援の利用は、現在の支給量の範囲内であれば公序良俗に反しない範囲で行先は限定しない。また、１日を超えない範囲で８時間以内の利用を原則とする。

②ヘルパーが運転する車には原則乗せない。道路運送法との関係もある。

③グループ支援を実施するために、利用者数：ヘルパー数を２：１、または３：１など、検討が必要。

２　就労支援部会

(1) 平成２７年度検討事項

ア　課題

(ｱ) 実習先の職種が偏っている。

(ｲ) 相互理解を深めながら、企業などとの距離を縮め、連携を図りやすくする必要がある。一般就労の促進や福祉的就労による工賃アップのためには企業とのタイアップ、マッチングの方法などを探る必要がある。

イ　今年度の取組内容、目標

(ｱ) 実習先を開拓し、実習職種を拡大。

(ｲ) 企業等とのタイアップ、マッチングの方法の検討(セミナーやシンポジウム形式の開催等)

ウ　今年度のこれまでの取組内容

(ｱ)碧南市障害者就労支援相談所として実習先開拓に向けて個別に事業所などを訪問。製造業１社、水耕栽培農家１軒を訪問。製造業については実習の取組みについて今後も個別の相談は受けていただけることとなる。また、水耕栽培農家については、農業経営の選択肢の一つとして障害者就労を考えておられ、実習や施設外就労に近い形で進められないかと調整中。

(ｲ)障害者就労の理解を深めることや促進に向け、障害者雇用セミナー開催を１０月１４日に予定。開催に向けて内容の検討と調整。当日は受付にて市内の就労移行支援事業所利用者も参加し、対応。ハローワーク刈谷より障害者雇用制度の説明を実施。実際に障害者雇用を行っている企業より企業体験談報告や愛知労働局あいち雇用助成室からの助成金などの説明、支援機関の紹介などを予定。セミナー後半部分では意見交換会も行う。広報については碧南市商工会議所、中小企業家同友会、ハローワーク碧南、碧南市農業委員会などの協力を得てチラシを配布。

３　こども部会

(1) 平成２７年度検討事項

ア　課題

(ｱ) 障害児支援を専門的に行える社会資源不足や各機関の役割が不明確。また、各機関との連携も不十分。にじの学園以外に専門的に相談する場が近くにない。

(ｲ) ほっとまんまにおける、ピアサポーターの確保と資質向上及びニーズ把握

(ｳ) サポートブックの普及が進んでいない。活用の仕方や、記入の課題もある。保護者に加え、保育園、幼稚園、学校の先生にも周知していく必要がある。

イ　今年度の取組内容、目標

(ｱ) 障害児支援体制の充実、関係機関の連携や役割と課題確認をしながら、ネットワークによる支援体制の構築に向けて検討を重ねる。

(ｲ) ほっとまんまの周知や相談コーナーの展開方法、相談員のフォローアップ

(ｳ) サポートブックが活用されるよう、利用者と支援者への周知やフォローアップを実施

ウ　今年度のこれまでの取組内容

(ｱ)現状把握

①関係機関の連携と課題確認

（対象）保健センター、子育て支援センター、にじの学園、幼稚園、保育園、学校

（結果）共通の課題として、支援者のスキルアップ、保護者対応、他機関の情報が少ないなど、専門的な支援の習得と必要な機関につなぐ機能が必要であることがわかった。

②障害児支援に対する保護者の思いを知る

（対象者）親の会、親子の会会員にアンケートを実施。

（結果）　支援者や支援に対する思い、保護者支援の必要性

(ｲ)こども部会

（内容）7月7日第1回こども部会を開催。碧南市の発達支援充実のための基本理念の考え方や乳幼児支援や保護者のアンケート結果を報告。

（結果）数年後を見据えたこども部会や発達支援事業を明確化していく
支援者のバックアップ体制づくりが必要

（取組）８月７日（金）社協保育園長に対し、福祉サービスの理解促進を図るため、相談支援専門員による事業の説明を実施。１１月４日（水）に公立園長を対象として実施予定。保育士のバックアップとして、公立保育園、社協保育園に対する講演会、グループワークを実施。

(ｳ)講演会

（目的）子育て支援の視点やライフステージに一貫した支援や制度の理解促進、共通認識づくり

（内容）日本福祉大学　渡辺顕一郎教授による講演会を開催
表題「子ども家庭福祉の観点から見た障害児の発達支援」

関係機関、事業所、学校関係者、主任や園長などを含め、５９名が参加。
（効果）家庭福祉から考える発達障害児支援や一貫した支援の必要性を把握した。
(ｴ) ほっとまんまピアサポーター
（目的）就園前の障害児が気兼ねなく遊べる場所を確保する。
障害児の子育てに不安をもっている母に対し、先輩ママの子育て相談日をつくり、不安解消できるようにする。
（内容）・フォローアップを兼ねた講習会を４月２１日（火）、５月１１日(月）に実施。各日１７名、実人数２２名が受講。ピアサポーターとして新たに１名　の方が協力希望、現在１３名が登録
・ほっとまんま相談コーナーの一環として、にじの学園へ出張相談を８月２１日、２７日、３１日に開催
・平成２６年度実績（H26 年 9 月～H27 年３月）
あいくる開設日　２２日
あいくる相談者数　１３件（述べ件数）
にじの学園出張相談日　４日　にじの学園相談者数　２２件（述べ件数）
（感想）先輩ママから情報が聞けて、将来のイメージができ良かった。
ほっとできる空間ができて嬉しいなどの意見が多い。

４　障害者災害時支援部会

(1) 平成２７年度検討事項

ア　課題

地域での避難行動要支援者の支援、発災後の個別支援について、具体的な検討をする必要がある。

イ　今年度の取組内容、目標

総合防災訓練で重症心身障害児者の具体的な避難訓練を実施する等、具体的な取り組みを進める。

ウ　今年度のこれまでの取組内容

６月１９日（金）に障害者災害時支援部会を開催。避難行動要支援者制度について報告したほか、重症心身障害児者６名に聞き取り調査をし、避難時における個別計画を作成した。作成した個別支援計画の例は次々頁の通り。

それを基に８月３０日（日）に開催された総合防災訓練で避難所まで避難する訓練を実施し、５人の当事者と６人のご家族に参加していただいた。現在、次回の部会に向けて、避難所及び避難生活、避難行動における課題の整理中。

【防災訓練当日の流れ】

８：２６頃　地震発生、碧南市防災メールにて当事者家族が地震発生を覚知、一時避難所である「棚尾小学校体育館」に避難開始

９：００頃～　順次、避難所へ到着。すべての家族が車で避難。
避難所受付で「災害時要援護者（避難行動要支援者）」がいることを報告。順次「福祉避難所」へ避難所係員が誘導。

９：３０頃～　福祉避難所での受け入れ開始。当日は、医療的ケアが必要な当事者はいなかったが、電源の確保、空調の調整、当事者と他家族の状況、避難所までの避難経路、方法、問題点、他の家族の状況等について聞き取り調査を実施。（福祉避難所として、棚尾小学校の特別支援学級の教室を利用した。）

１０：００頃～　エレベーターを利用して、各教室の状況や移動方法について検証。避難行動要支援者が特別教室等を利用しやすいかどうか確認。その後、各自、福祉避難所で過ごしていただく。

１０：３０頃～　配給のあった、カレーライスを食べていただく。アレルギー食の対応は必要がなかった。

１１：００頃～　各自、自宅へ帰宅。後日、帰宅までの状況等について聞き取り。

【参加者の感想】

・車で避難したが、駐車スペースへの入り口がわかりづらかった。雨が降ったため、移動が大変であった。
・避難所で受付の場所が分かりにくかった。車いすを押しているのが市の職員の人等は見てわかるであろうが「お手伝いしましょうか？」等と声をかけてくれ

る職員はいなかった。

・避難所での時間をどのように過ごすかが課題。スマホの動画や特別支援教室にあったおもちゃ等で遊ぶことが出来たが、すぐに飽きてしまう。

・障害者用トイレに自転車が置いてあり、利用ができなかった。簡易ベッドがないので、おむつ交換等が必要な場合に、トイレではできない。

・地域の防災訓練にも参加し、地域の状況を確認する必要があると認識した家族もあった。

【今後の課題】

・自閉症等発達障害、知的障害、精神障害者等について、個別の障害や困難さによる避難行動、避難生活の問題点を検証する必要がある。

・避難所運営者をはじめとする行政職員や自主防災会、地域住民に、障害者の存在や基本的な対応方法等を周知していく必要がある。

・福祉避難所の具体的な運営委方法について、マニュアル化する必要がある。

個別計画を追加

５　地域生活支援部会

(1) 平成２７年度検討事項

ア　課題

精神科病院長期入院者の実態が把握できていない。

イ　今年度の取組内容、目標

(ｱ) 地域移行支援・地域定着支援部会を以下のメンバーで立ち上げる。

刈谷病院ＰＳＷ、矢作川病院ＰＳＷ、衣浦東部保健所、市内精神障害者を受け入れている事業所、市内グループホーム事業所、基幹相談センター、市内相談支援事業所、当事者、または当事者家族

(ｲ) 実態調査を行い、当事者及び病院 PSW 等から意向を集約

(ｳ) 市内での居住の場所、グループホーム等への入居、家族の下で生活することの確認

(ｴ) プロジェクトとして精神障害者等の居場所「ころころ」の運営について協議

ウ　今年度のこれまでの取組内容

(ｱ) ７月２３日（木）第１回部会開催。刈谷病院、矢作川病院の現状の情報共有。地域の受け皿としての社会資源の不足、親亡き後の生活、地域移行の対象となる方の実態把握の必要性の確認、障害保健福祉圏域を対象にアンケート調査を実施してはどうかとの意見でまとまる。

(ｳ) ころころについては、毎週木曜日、１０時から１５時までへきなん福祉センターあいくるで開催。平成２７年度の１日平均の利用者（当事者）は１０．２人。

- ころころに来ることで、安定した毎日を送れているひきこもり経験者
- ころころの他の利用者から就労継続支援事業所の存在を知り、就労継続Ｂ型の利用につながった方
- うつ病で休職中に病院でころころのパンフレットを見て来所。ころころの利用により、自信がつき、復職された方
- 病気の状態から自宅にも居場所がなく、ころころで過ごす方（木曜日以外の平日にも来所）
- プログラムの「折り紙」活動から、老人保健施設でのボランティア活動を行うことが出来るようになった方

等がある。

奇数月の第１木曜日に運営委員会を開催し、翌月・翌々月のプログラムを当事者、ボランティア、職員で検討している。

７月２日（木）にボランティア向け研修会を開催し、当事者への対応方法、ボランティアの基本姿勢等について、あおみＪセンターの職員より教えていただき、ボランティア同士の交流も行うことが出来た。